

平成 30 年度第 1 回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 平成 30 年 7 月 3 日（火） 午後 2 時～午後 3 時 40 分

2 場所 島田市民総合施設 プラザおおるり 第 4 会議室

3 出席者

(1) 委員

松本委員、森澤委員、小栗委員、片川委員、沼田委員、岡村委員、岸委員、山本委員（10 人中 8 人出席）

※欠席委員 高橋委員、松永委員

(2) 事務局等

濱田教育長、畑教育部長

教育部文化課 太田課長、新聞課長補佐、石間主査、杉野主事

(3) その他

萬屋副市長（委員自己紹介後、公務のため退席）

4 概要

(1) 開会

(2) 委員委嘱

(3) 教育長あいさつ

(4) 委員自己紹介

(5) 正副会長選出

会長 松本委員

副会長 森澤委員

(6) 報告事項

次の点について事務局から報告した。

①島田市文化芸術推進協議会の役割について【資料 1】

委員からの意見等はなし。

②(仮称)島田市文化芸術推進計画の策定について【資料2】

委員からの意見は以下のとおり

- 文化芸術基本法が平成29年に改正され、平成30、31年度にかけて島田市の文化芸術推進計画を策定することは、とても良いタイミングである。平成29年度前に策定した計画の内容は古く感じる可能性がある。これから策定する計画は、法改正前に策定されたものよりも面白いものができると思う。

③平成30年度事業について【資料3】

委員からの意見は以下のとおり

- ベーゼンドルファーを2台持っている自治体は少ない。調律等が必要で手間もお金もかかるが、ベーゼンドルファーを使って魅力的な事業を企画してほしい。
- 島田の魅力はありふれた観光地ではないところ。これを強みにした事業を企画すればいいのではないか。
- 観光地ではないことが外から見ると魅力であっても、内から見ると観光地になることができないという悩みになる。
- 路地裏のようは細い歩道を作って欲しい。旧市内の広い歩道は閑散としすぎて魅力が無い。
- JR東海が企画しているさわやかウォーキング等で島田市を訪れる人もいる。魅力的な歩道があれば、ウォーキング等をする人たちを島田に呼ぶことができるのではないか。
- 掛川と島田でお茶の争いをしているが、静岡茶で全国発信した方がいいのではないか。
- 島田市の「お茶の郷」から静岡県「ふじのくに茶の都ミュージアム」にリニューアルオープンされてお洒落になったが、地元住民の視点ではお土産の種類も減り、魅力は半減したように思う。
- 旧金谷町のときは伊勢丹がお土産コーナーを担当しており、様々なものを販売していた。この頃は観光客だけでなく、お土産の購入に近くの住民も訪れていた。
- 島田市には「ふじのくに茶の都ミュージアム」があり、文化芸術基本法では「食」が生活文化として明記された。食文化としてのお茶を、今後協議していく計画に盛り込んでいくことは十分に考えられる。
- 食文化でお茶以外にPRできるものはないか。
- ピーナッツを煮たものが美味しかったし、珍しいと思った。
- これは川根筋の郷土料理で大豆の代わりに落花生を使った煮豆料理である。
- 今月大井川河川敷でスカイランタン祭がある。大井川の広い河川敷は全国的に見ても珍しいので、これを島田の特色的なイベントに育てることはできない

か。

- 島田市内の観光スポットとして、最近897.4（やくなし）茶屋がオープンしたこともあり、蓬莱橋は薦めやすい。
- 最近オープンしたばかりのふじのくに茶の都ミュージアムも話題性があり薦めやすい。
- 川越街道については、素材として良いと思うが、案内しにくい。
- 川越街道は史跡のため、文化財保護法により観光地としての開発が難しい。電灯などが付けられず明るく出来ないため、夜に観光客を集めるのはさらに難しい。
- 文化財保護法が改正され、文化財を観光に活かすという視点が加えられた。
- 文化財を観光に活かすには、しっかりと文化財を説明できる人材が必要になってくる。
- 川越街道については、これから協議会で協議したい項目の1つにあげられる。
- 観光資源は行政でなく市民で作っていきたい。
- 大井川沿いに民泊をつくり、ありふれた観光地にするのではなく、民泊のまちとして島田を盛り上げたい。
- 民泊を利用したいと思っている人は全国にいるし、海外からのお客さんも期待できる。何かのイベントや観光を目的に来るといよりは、そこにいてだけで楽しいという感覚で、地域そのものを楽しみに来るといふ人が多いことが民泊の特徴。
- 外国人の中には「茶摘み体験」をキーワードに宿泊先を探して、民泊にたどり着いた人もいた。
- 帯まつりや鹿島踊り（大井神社の氏子等による）等は島田オリジナルなのに、現在は祭りの参加者確保が困難になり、存続が大変になってきている。
- お寺は檀家があり法事があるため、定期的に人が集まる。神社は氏子制度があるが、人が集まる機会は少ない。
- 氏神が守ってくれる範囲に住んでいる人のことを氏子というが、市民の中に氏子の概念がなくなっている。
- 10年後には更に若い人が減り、帯まつりも人手不足となる。祭りには細かなルールがあり、転入者が来て、すぐに中心的な役割を担うことは難しい。
- 大井神社でキャンドルナイトを行った時は多くの人が集まった。
- 金谷の茶まつりを八十八夜（5月1日～3日頃）にして欲しいと提案したが、若い人たちに「その時期は浜松まつりがあるから参加できない。」と言われてしまった。若い人たちは二年に一度の金谷茶まつりより、毎年開催される浜松まつりに魅力を感じている。若い人たちが集まるような、魅力ある祭りにしなければならない。
- 今後、文化施設を建設することがあったら、市民が本気で汗をかいてやらなけ

ればならない。行政が建設して、自分の興味のあるイベントの時だけ市民が訪れるのでは文化施設としての意味は無い。

- 今、島田市に市民会館が無いことは会館の運営や予算に縛られることがないので、自由な発想で文化芸術を考えるチャンスなのかもしれない。
- 市民会館には素晴らしい機材があった。文化施設にある機材を身近なものとして興味を持ってもらい、機材を扱える人材を市民の中から育成する必要がある。
- 機材を扱う技術を学ぶとイベント等の見方が広がる。裏方からの視点も含め、文化事業を好きになってもらうきっかけを増やしてほしい。

(7) その他

次回の委員会開催は10月頃を予定し、調整後に決定することとした。

(8) 閉会